
御前崎市 dX推進戦略

デジタルと共にある地域の未来を描き、道を照らす

dXとは

将来にわたって地域での幸せな暮らしを守り続けるために
地域全体が、デジタル技術も活用して、
住民本位の行政・地域社会を再デザインするプロセス



dよりもXを重視

単にデジタル技術を導入するだけでなく、デジタル技術も、人も、仕組みも一緒に進化していくのが私たちの目指すdXです。

あくまで一手段である「D」(デジタル技術)よりも「X」(変革)を重視していることから、「d」を小文字、「X」を大文字で表現しています。

本戦略の位置付けと体系



ムリ・ムダ・ムラを無くして、ずっと頼れる行政を作ろう

↘ 地域課題や現状

専門的な知識や技能を持つ
人材の採用が困難

人口減少により
行政職員の確保が困難

🚩 達成したときの姿

限られた職員数や予算を最大限に
活用し、住民ニーズに応える
サービスを維持する

職員が本来の役割に専念できる

将来像(Vision)

行政サービス

みんなの”ちょうどいい”を実現しよう

↘ 地域課題や現状

オンライン手続きが未対応または使い方が分からず、窓口に行かざるを得ない

手軽に手続きを済ませたい人、じっくりと相談したい人がいる中で画一的な対応になっている

🏠 達成したときの姿

自宅や外出先から簡単に手続きができるようになり、行政サービスがより身近に

迅速さときめ細やかさの両立で、多様なニーズに対応

新たな組み合わせで地域の”困った”を乗り越えよう

↘ 地域課題や現状

気候や災害リスク、人口構成、産業構造などがエリア全体で類似しており、エリア内のどこかで解決策を見出せば、周辺地域にも波及効果が期待できる

🚩 達成したときの姿

デジタル技術や地域資源も活用し、地域の様々な問題に対して、民間企業のノウハウや住民の協力を得ながら、解決を図る

未来への扉を開く、7つのカギ

挑戦

小さく始めて、大きく育てよう

新しいことに取り組み、試行錯誤しながら磨き上げていく文化を大切にする。

安全安心

安心して使える守られた仕組みを届けよう

利用者が安心できる安全なセキュリティを確保する。

オープン

見える・話せる・動き出せる行政に

情報の見える化と対話を通じて、住民と共に動く行政へ。

利用者目線

利用者目線で価値を創造しよう

職員も含めた利用者それぞれの立場になって、サービスや体験を提供する。

成長

デジタルを使いこなす知恵と経験を身に着けよう

地域全体でデジタルを手段として扱うためのスキルを向上する。

データ活用

データの力で、価値を生み出そう

主観だけでなく、根拠ある判断を。未来志向の意思決定へ。

発想

新たな発想で価値を最大化しよう

既存の前提にとらわれず、柔軟に捉えて最適解を探す。

